

株式会社ピーエスシー

2011年2月15日

市場	JASDAQ (スタンダード)	業績 (百万円)	2008/12	2009/12	2010/12(4Q)
上場承認日	2011/2/15	売上高	668	772	1,144
上場予定日	2011/3/23	営業利益	167	149	336
主幹事証券	野村証券	経常利益	161	142	330
監査法人	有限責任監査法人トーマツ	当期利益	91	84	193
URL	http://www.hos.ne.jp/	総資産	476	564	779
証券コード	3649	純資産	127	212	398

● 事業内容 (特に記載しない限り、数値は2009/12期)

- ・ 同社は、大規模病院や診療所に対する、医療システム及び医療ネットワークシステムの開発を主たる業務としており、ソフトウェア製品の企画・開発・販売とメンテナンスを行っている。
- ・ 大規模病院向けでは、診療上の各データ(レントゲン写真、エコー、CT、MRI、手術動画、血液検査データ等)の一元管理システム(商品名:Claiio)や、診断書・紹介状・各種証明書等の書類の作成システム(商品名:Docu Maker)、既存の紙カルテを電子データ化して保存・管理するシステム(商品名:C-Scan)等を提供している。
- ・ 診療所向けでは、受付から診察・診療報酬の請求までの主要工程の全てをIT化することをコンセプトに、レセプトソフトや電子カルテ(商品名:REMORA)の導入支援等を行っている。
- ・ 売上は、販売先別でなく商品別に開示されており、①ソフト、②ハード、③メンテナンスに分類されている。ただし②は①に付随して発生するものであるため、①と③がメインとなる。売上高推移では(2008/12→2009/12→2010/9:3Q)、①4.9億円→5.8億円→5.3億円、③0.9億円→1.1億円→0.9億円と、いずれも堅調に伸びている。なお、販売先のうち約20%はNEC向けである。
- ・ 販売経路は、直販及び代理店経由のいずれの場合もあるが、直販は売上高が高くなる反面、取扱件数に制約を受けるため、今後は代理店販売を強化していく方向にあるとのこと。なお、直近2期の売上高は、過去の売上推移(1.6億円(2005/12)→3.6億円(2006/12)→3.0億円(2007/12))と比較して相当程度伸びている。販路の変更や新製品の登場などが想定されるが、理由は明記されていないので不明。

● 財務諸表より (特に記載しない限り、数値は2009/12期)

- ・ 総資産は5.6億円と小規模である。主な内訳は、現預金1.6億円と営業債権2.1億円、ソフトウェア0.9億円など。売上規模に比較して営業債権が多額に見えるが、12月に売上の相当部分が計上されていることを考慮すると、入金サイクルは約2ヶ月と正常範囲内にあると想定される。また、ソフトウェアのうち販売用ソフトウェアは、最長で2年という短いサイクルで償却している。
- ・ 負債は3.5億円。主に有利子負債2.3億円や未払金0.2億円、前受金0.2億円等。前受金はメンテナンス契約の期間未経過部分と想定される。また有利子負債は、今回のファイナンスによる調達資金により大幅に返済される予定。
- ・ 利益率は、粗利率57.1%、営業利益率19.4%、当期利益率11.0%。粗利率は前年とほぼ同率であるが、営業利益率は5.5ポイントほど下落しているが、支払手数料が0.3億円ほど増加しているのが主な要因である。詳細は不明であるが、上場準備コストであろうか。ただし、最近事業年度の監査報酬(証明業務部分のみ)は7百万円と決して高くはない。また、研究開発費も8百万円と少額である。
- ・ 直前期に前損損失(947千円)が計上されている。前期の売上高を修正したものとのことであるが、なぜ直前期に発生したのかは不明。相当程度少額であるにもかかわらず特別損失計上している理由も不明。

● その他 (リスク情報、株式公開情報等より)

- ・ 医療機関の場合、システムの稼働開始日を1/1に設定することが多いため、システム検収日が12月に集中することが多いとのこと。そのため、年間売上高の20%~25%程度が12月の一ヶ月で計上されている。
- ・ 同社は2010/12で26期と、意外と社歴が長い。しかし取扱ビジネスは、肥料土壌改良剤の製造事業、生命保険代理事業、病院給食の製造受託事業等と多々変更しており、現在のビジネスを手がけ始めたのは12年ほど前からである。
- ・ 経営陣は、取締役5名、監査役3名とシンプル。非常勤監査役に、医療法人勤務経験者がいることと、監査役のうち社外は1名しかいないことが特徴的。
- ・ 株主では、代表取締役が過半数を保持しており、親族を含めると議決権ベースで72.1%を保有している。公募・売出実施後でも56.2%と上場後も過半数を維持する見通し。なお、創業者の妻は大株主であったが、直前に親族(子供と想定される)への贈与を行ったため直近では株式を保有していない。創業者以外ではVCが上位に来ている(16.0%)。ただしVCは、今回の売出で保有株数の7割を売却する予定。
- ・ 届出書記載の株価(@800円)で計算すると、時価総額は17億円程度と小規模であり、そのためか、幹事証券は主幹事を含め全部で3社と少数である。また、2010/12期の利益で計算したPERは8~9倍程度と低い水準である。

© (株)アカウンティング・アシスト (無断転載禁止) URL: www.accounting-assist.com E-mail: info@accounting-assist.com

※ご留意事項

本書は証券取引所のサイトにアップされた「上場申請のための有価証券報告書(Iの部)」など、一般的に公表された情報を基に、新規上場予定企業の概要をお伝えすることを目的として作成しております。内容に一部作成者の私見が含まれることがありますが、投資行動への指図や投資勧誘を目的としたものではありません。また本書の作成誤り・事実誤認等により利用者に経済的損害が生じた場合も、これを補填する義務は一切存在しませんので、予めご了承ください。